

2017年9月24日 礼拝メッセージ

聖書：使徒の働き 9章 32～43節

説教：キリストがあなたをいやす

はじめに

前回は、クリスチャンを憎み、教会を激しく迫害していたサウロが、ある日突然よみがえられたイエスに出会って、劇的な回心を遂げたところを見て参りました。このことで大いに戸惑ったのは、本人よりも教会であったと言えるかも知れません。つい昨日まで教会を迫害していた男を、自分たちの仲間として迎え入れるわけです。考えてみてください。サウロのせいで、どれだけ多くの人たちがつらい目に遭い、死後を失い、一家離散となり、町を追われて逃げなければならなかったか。そんな男を喜んで迎えようと思う者はだれかいるでしょうか。そんなとき教会の長老であったバルナバは、サウロを弁護し、サウロがどのようにしてよみがえられたイエスに出会い、どのように彼は変わったのか、忍耐強く説明します。すぐに厳しい反対意見の声が上がったでしょう。でも少しずつ考えていきます。主が教えてくださった祈りの中にこうあります。「私たちが私たちに負い目のある人たちを赦しました。」ただのお題目ではないはずです。主が私を救ってくださったのなら、サウロの負い目を赦し、教会に迎えることが主の御心ではないのか。そのことに気がついたとき、教会はサウロを自分たちの仲間として迎え入れることにします。これをきっかけにして、福音はますます全地に広がり、次々に救われる人が起こされ、教会が建てられていきます。

地方にある教会をまとめる組織のようなものがあつたわけではありません。使徒たち

が手分けして教会を訪問し、相談に乗り励ましていきます。今日の所では、そんな働きをしていたペテロが登場します。彼がしたことは何であつたかを見て参ります。

1 ペテロ

1) 「立ち上がりなさい」

ここには二つの出来事が書かれています。最初に登場するのがルダという町に住んでいたアイネヤです。この人は中風で倒れ、八年の間寝たきり状態になっていました。そのアイネヤにペテロはこのように言います。「アイネヤ。イエス・キリストがあなたをいやしてくださるのです。立ち上がりなさい。そして自分の床を整えなさい。」するとアイネヤはただちに立ち上がった。これを見ていた町の人たちは、主に立ち返りました。これがどのようなことなのかは、また後で見ることにして、とりあえず二番目の出来事を見ておきましょう。

2) 「起きなさい」

次に登場するのが、ヨッパという町に住んでいたタビタという女性です。ヨッパは、さきほどのルダの町からは歩いて半日くらいのところにあつて地中海に面した港町です。タビタは、非常に熱心なクリスチャンで、特にやもめや生活に困っている女性たちのために大きな働きをしていました。しかしあるとき重い病気にかかり、亡くなってしまいました。人々はルダに滞在していたペテロを呼びに行き、「大急ぎで来てもらえますか」とお

願いをします。早速ペテロが駆けつけるのですが、行ってみると、生前タビタの世話になっていた女性たちが集まっていて、ペテロの顔を見るなり、タビタがどんなに親切にしてくれたか、どんなに自分を犠牲にして自分たちのために働いてくれたか、次々と泣きながら証し始めます。一通り聞き終わってからペテロはみなを外に出し、ひざまずいて祈りタビタのなきがらに、「タビタ。起きなさい」と言う。そうしたらタビタは目を開けて起き上がった。これを見たヨッパの町の人たちは主を信じます。

ペテロに神が働いてくださり、それでこのような不思議なことが起こっているのだらうと考え、なんとなく納得したつもりになります。しかし、もう少し深く考えたいと思います。

2 イエス

1) ルカ 5 章 18 節

この二つの話、どこかに似たような場面があるのではないかと。そう思って調べると、ありました。最初の中風の場面は、ルカ 5 章 24 節に出て来ます。中風の人がかつかれてイエスがいる所に連れて来られたのですが、多く人がいたので近づくことができない。そこで屋上の瓦をはがして穴を開け、そこから病人をつり下げた。あの箇所です。これを見ていたイエスは中風の人にこう言いました。「あなたに命じる。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。」すると彼は、たちどころに人々の前で立ち上がり、寝ていた床をたたみます。それを見ていた人々は神をあげました。

この話と今日の箇所を比べるとよく似ている。中風の人に向かって「立ち上がりなさい」と言うところ。「寝床をたたみなさい」、あるいは「整えなさい」というところ。これはたんなる偶然でしょうか。

2) マルコ 5 章 41 節

では二つ目のタビタのことはどうでしょう。マルコの 5 章にこんな話が載っています。会堂管理者ヤイロが娘が死にかけているので来てほしいとイエスにお願いをする。イエスはヤイロの家に向かうのですが、その途中で長血の女性のことで手間取ってしまい、前に進まなくなる。とうとう娘が死んだと知らせが来る。けれどもイエスは、「恐れなくて、ただ信じていなさい」と言われて、そのヤイロの家に向かっていきます。その場面が書かれている、マルコ 5 章 41 節を読みます。「(イエスは) その子どもの手を取って、『タリタ、クミ』と言われた。(訳して言えば、『少女よ。あなたに言う。起きなさい』という意味である。)

イエスはアラム語を話していました。「タリタ、クミ」というのはアラム語です。でも私たちには意味がわからないので、それでわざわざ「訳して言えば」と説明があって、「タリタ」は「少女よ」という意味で、「クミ」は「起きなさい」と意味です。ここで皆さんは気がついたでしょうか。ペテロはなんと言ったか。40 節。「タビタ。起きなさい」です。アラム語に直せば。「タビタ、クミ。」これも単なる偶然なのか。そんなことはないと思います。ペテロは先ほどの中風の人がかいやされるときも、会堂管理者ヤイロの娘がよみがえるときも、そばで見っていました。そのときイエスが何を語ったのか、覚えている。「タビタ。起きなさい。」かつてイエスが語ったことを自分も語るようになるとはそのとき

思ってもいなかったでしょう。ペテロはイエスが歩んだ道をたどっているようです。

3 だれがいやすのか

1) ペテロが信仰深いからか？ (3章12節)

そもそもなぜ彼はこんなことができるのか。イエスに選ばれた一番弟子だからでしょうか。あるいは信仰深いからできたのか。周りで見ていた人たちは、ペテロが奇蹟を起こすといつも周りの人たちはまずそう考えた。それでペテロは、誤解されないようにきちんと念を押します。34節。「アイネヤ。イエス・キリストがあなたをいやしてくださるのです。」

ここでは一言しか触れていませんが、もっと詳しく説明している箇所が3章にあります。足のなえた人がペテロのことばによって歩き出すのですが、これを見て大変な騒ぎになって人が集まってくる。その人たちにペテロがこう言う。「イスラエル人たち。なぜこのことに驚いているのですか。なぜ、私たちが自分の力とか信仰深さとかによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。」

ペテロが何か大きな力を持っていて、このようなことができたのではない。まず明確に否定します。

2) あなたがたはいのちの君を殺した

では、この大きな奇蹟を起こしてくださったイエス・キリストとは何者であるのか。続いて語ります。「アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち、私たちの父祖たちの神は、そのしもべイエスに栄光をお与えになりました。あなたがたは、この方を引き渡し、ピラトが釈放すると決めたのに、その面前でこ

の方を拒みました。そのうえ、このきよい、正しい方を拒んで、人殺しの男を釈放するように要求し、いのちの君を殺しました。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。」

あの3章で語ったことを、ペテロはルダで中風で寝たきりだったアイネヤを立ち上がらせたときも、ヨッパでタビタを起こしたときも、同じように語って、人々に説明しました。

ペテロがやっているのではない。イエス・キリストがしてくださっている。そのイエス・キリストは、私たちとどんな関係があるのか。ペテロに言わせれば、私たちはきよい、正しい神のひとり子を拒み、十字架で殺した。イエスを殺したと罪は、どこへ逃げようとも、どこへ隠れようとも、生涯私たちを追いかけってくる。自分は関係ない、と言い逃れできない。それでも十字架のイエスに背を向けるのか。それとも十字架につるされているイエス、あれは私がしたことだと向き合うのか。神は、二つに一つの選択を私たちに迫ってきます。

ペテロの言い方は厳しく聞こえるかも知れませんが、今の時代なら、もっと易しい語り口をしたほうがよい。こんなことを言ったら教会に人が来なくなる。そんな心配をする方もいるそうです。しかし、聖書ことばは永遠です。どんなに悪い時代であろうが、どんなに人々の心が冷たくなろうとも、そのまま語ります。神の子イエスを十字架につけた。これが私たちのしたことです。

3) 悔い改めて神に立ち返りなさい (3章19節)

どうして神はペテロの口を通して、このような厳しいことを言うのか。責めるためです

か。いいえ。救いたいのです。だからペテロはこう言う。3章19節。「そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。」

中風で苦しんでいたアイネヤが立ち上がることができたのは、なぜか。死からよみがえられたキリストがいやしてくださったからでした。死んでいたタビタが起き上がったのは、なぜか。死からよみがえられたキリストが起こしてくださったからでした。

彼らはみないやされました。だから同じように私たちもいやされるように、病気が治るようにと祈ります。いやしを願います。でもいやしとは何か。ただ病気が治るということではない。ただ死んだ者がよみがえった、ではない。罪が赦されるかどうか、それにかかっている。罪がぬぐい去られたので、いやしが起きる。そういう順番を忘れてはならない。

「キリストがあなたをいやしてくださるのです。」ペテロはこう言いましたが、それは、キリストがあなたの罪を赦してくださるのです。そのような意味でもあります。私の罪を赦す者はだれもいませんでした。そのことでずっと苦しんでいました。しかし、主キリストが赦してくださる。ルダとサロンの人々、そしてヨッパに住む人々が、ペテロのことばを通して主に出会い、救われていきます。

罪を赦してくださる方がおられる。その方に私たちも出会うことができた。もし救いを受けているのなら、すでにその人はいやされていることにもなる。このような約束をいただいていることに感謝したいと願います。